15 物語文を読む

学年	組	名前

1　次は、『たったひとりの伝説』という物語のはじめで、「おじいちゃん」にとどいた外国の手紙を見せられた「ぼく」について書かれた場面の一部です。［ア］［イ］［ウ］の中に入る人物を、本文中の言葉を使ってそれぞれ書きましょう。

「読まなくても、みるだけでいい。」
おじいちゃんに言われ、ぼくは三枚の紙をひととおり見た。そして、
「やっぱり何が書いてあるか、わかんないよ。」
と言って、すぐに紙をおじいちゃんに返した。
もしもそのとき、部屋に母さんがいたら、とんでもないことになっていただろう。［ア］はこれくらいのことでも、顔をまっ青にして［イ］にあやまるか、さもなければまっ赤になって、こんなふうに言って［ウ］をしかる。
「なんですか、その態度は。おじいさまに、『やはり、わかりません』と言いなおしなさい。」

（斉藤洋『たったひとりの伝説』による。）

ア　［　　］
イ　［　　］
ウ　［　　］

平成２２年度
全国学力・学習状況調査
国語Ａ問題
平均正答率　全国５３．５％